

大学発スタートアップマガジン



2020

とっきんとっきん vol.1

日本全国に名を轟かせた三英傑。

世界屈指のものづくり産業の集積地。

基礎に始まり社会に繋がる教育・研究を行う大学。

東海地区は昔から多くの顔を持ち、この地から日本や世界に影響を与えてきた。

そして、現在どのような影響を与えているのか。

未来の東海地区はどのように変化しているのだろうか。

もっと楽しく、もっといい社会、もっといい未来のために、大学は研究を続け、学生は成長を続けていく。

ここから生まれてくるテクノロジーやアイデアは、その結晶である。

世界に新しい価値を創ることが、きっと、いい未来に繋がっていく。

東海地区では、“トンガっている”ことを“とっきんとっきん”と言う。

“とっきんとっきん”な東海地区から生まれる大学発スタートアップを、これからも応援したい。



INDEX

FUTURE DESIGN	03
INTERVIEWS	05
PROJECTS Tongali プロジェクト	07
名古屋大学・東海地区大学広域ベンチャーファンド	08
MEMBERS 名古屋大学	09
豊橋技術科学大学	10
名古屋工業大学	11
岐阜大学	12
三重大学	13
SUPPORTERS	14
KNOCK-KNOCK STARTUPS	15
NOTES	18

株式会社トライエッティング

<https://www.tryeting.jp/>

名古屋大学発ベンチャー。認識・未来予測・最適化などの「知能作業自動化」を行う。メーカー・小売・物流・商社など幅広い領域で、在庫管理・勤務シフト管理を中心としたサプライチェーンに関わるヒト・モノの最適化に取り組む。



株式会社オプティマインド OPTIMIND

<https://www.optimind.tech/>

名古屋大学発ベンチャー。「世界のラストワンマイルを最適化する。」のミッションのもと、ルート最適化事業を展開。「どの車両が、どの訪問先を、どの順番に回ると最適か」を計算するLoogia(ルージア)を開発し、配送効率化を促進する。

株式会社Lukos

<https://lukos.co.jp/>

岐阜大学発ベンチャー。東海地区の製造業が抱える課題をIT・AI技術の側面から解決に導くために、システム・サービスの研究・開発・提供に取り組む。



AI & IoT



Service サービス

ZAZA株式会社

<https://airkitchen.me/list/tokyo.php>

名古屋大学発ベンチャー。食卓マッチングプラットフォームairKitchenを運営。家庭料理を作りたい/教えたい「現地のホスト」と、旅行先で現地の料理を食べたい/学びたい「旅行者」をオンラインで結ぶ。



株式会社アロマビットシリコンセンサテクノロジー

<https://www.aromabitsst.com/>

2019年6月28日設立。豊橋技術科学大学・澤田和明教授の研究グループが世界で初めて開発した、イオンイメージセンサを基盤技術とする二オイセンサの社会実装の加速化に取り組む。



株式会社テクノスピーチ

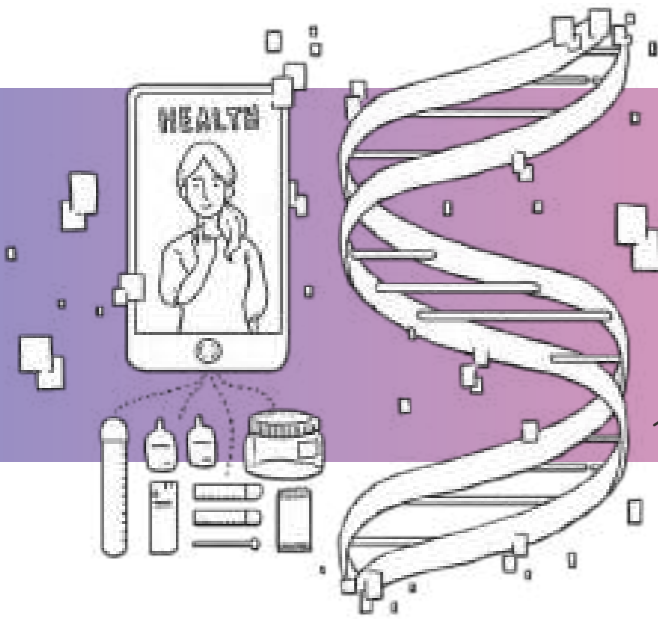
<https://www.techno-speech.com/>

名古屋工業大学を中心に開発された最先端の音声・歌声合成技術を扱う。研究開発の展開による社会還元と、その成果を活用した質の高いサービスを目指し様々な製品・サービスに搭載できる形で提供している。



FUTURE DESIGN

大学発スタートアップは、社会を変革し新しい価値を生み出すことで、新たな未来を創ろうとしている。それは、地球のため、人類のため、社会のため。多岐にわたる分野を手がける東海地区の大学発スタートアップは、確実に未来をデザインし始めている。一部しか紹介できないのが忍びないが、未来がここから生まれていることを知ってほしい。

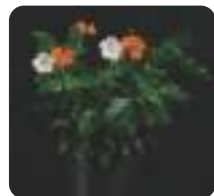


ヘルスケア&バイオテック

Healthcare & Biotech

Material & Manufacture

マテリアル&マニファクチャー



グランドグリーン株式会社

<https://www.gragreen.com/>

名古屋大学発アグリバイオベンチャー。あらゆる植物を接木できる技術やゲノム編集デリバリー技術などにより、新たな付加価値を持った作物を迅速に開発する。また自動接木システムにより労働集約的な苗生産現場の変革を目指す。



ユナイテッド・イムニティ株式会社

<http://unitedimmunity.co.jp/>

三重大学のがん免疫療法技術に、京都大学のナノ粒子工学を組み合わせた「ナノ免疫療法」を開発するスタートアップ。ナノ免疫療法を駆使して世界的課題となっている難治性がん「Cold tumor」の克服に挑む。



株式会社ヘルスケアシステムズ

<https://hc-sys.com/>

名古屋大学発ベンチャー。食品の機能性研究を背景に独自の検査技術を確立。「世界をもっと楽しく健康に」をビジョンに掲げ「生活習慣のミスマッチをゼロにする」をミッションに事業を展開している。



株式会社PREVENT

<https://prevent.co.jp/>

名古屋大学発ベンチャー。「一病息災」慢性疾患を抱える方への健康づくり支援を、IT活用により実現するデジタルヘルススタートアップ。ライフサイエンスとデータサイエンスの融合と社会実装をテーマに活動している。

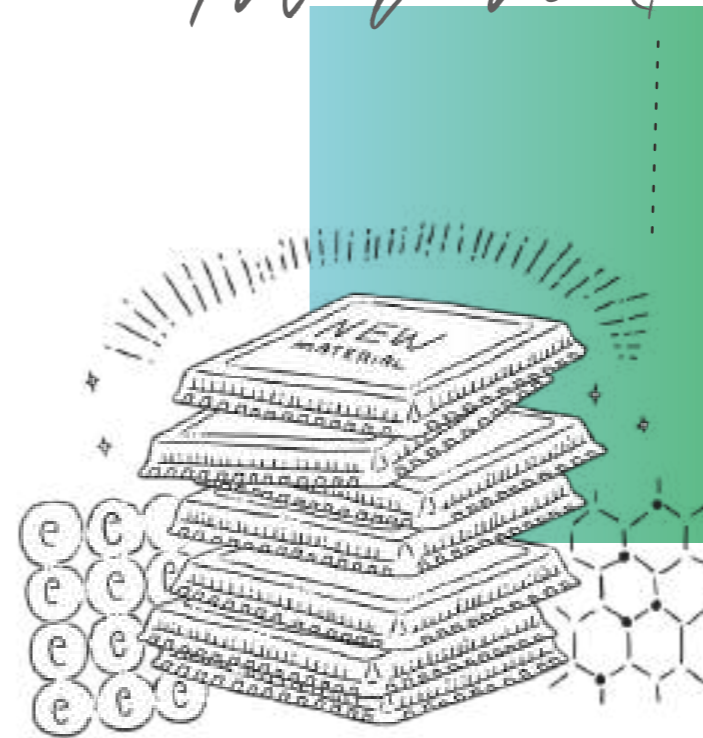


Icaria 株式会社

※4月よりCraffに社名変更予定

<https://icariacorp.com/>

名古屋大学発ベンチャー。日本が誇る素材材を用いて生体分子を捕捉し、AIを組み合わせて医療に応用する。わずか一滴の尿から高精度でがんを早期発見する検査を開発している。



株式会社Photo electron Soul

<http://photoelectronsoul.com/>

名古屋大学で30年以上培われてきた半導体フォトカソード技術を核に、次世代電子ビーム生成システムの開発・製造・販売を行う。半導体検査装置用途の大きな課題である検査時間の大幅な圧縮を実現。この事業を起点に他用途にも展開し、産業用電子ビームの刷新を目指す。



株式会社 U-MAP

<http://www.umap-corp.com/>

名古屋大学と新素材「Thermalnite」の開発・事業化を進めている素材系スタートアップ。この素材を活用し世界の電力の10%を削減することをミッションとする。



INTERVIEWS



東海東京フィナンシャル・ホールディングスとは？

グループ会社である東海東京証券、東海東京インベストメントをはじめ、東海地区のベンチャー企業の育成から上場までのサポートをおこなっています。地域貢献の一環として、オープンイノベーションに基づく研鑽・交流の機会を提供するための任意団体「中部オープンイノベーションカレッジ」の運営も実施しています。

東海東京インベストメント株式会社
常務執行役員・投資部長 阿部 剛久 氏

—ベンチャー支援をしている阿部さんの視点で見ると、東海地区はどのように変わってきましたか？

阿部:なごのキャンパスやナゴヤイノベーションズガレッジなど交流の場はできてきていると感じています。外に視野を広げる意識を持ち、知識やネットワークを求め意識を持てば、中部地区のイノベーションはもっと加速していくと思います。

—東海東京フィナンシャル・ホールディングスとしては、どのような支援をしていく予定なのでしょう？

阿部:名古屋大学のTongaliに関わっている人も含め、この中部地区の経済の基盤に成り得るような事業に挑戦し、やる気がある起業家を応援していきたいと思っています。

私が「中部オープンイノベーションカレッジ」でやりたいことは、大企業でオープンイノベーションや新規事業開発に取り組んでいる人たちと、新しい技術を持つベンチャーを結びつけ、事業として成り立たせるお手伝いをする事です。それが、私たちの課題であり責任だと思っています。オープンイノベーションは、大企業側にとってもベンチャーにとってもメリットがあります。

—そのためには、どのような課題を解決していくべきだと思いますか？

阿部:スタートアップ支援やアクセラレータープログラムが充実し、起業したい方にとって良い環境が整っていますが、忘れてはいけないのは、起業した後の支援です。ファーストユーザーを作り、信用力になるような企業と提携していくことで、ベンチャー企業のエンジンを回していきたいと思っています。中部地区でファーストユーザーが付き、ユーザーを複数獲得できれば、ある程度の規模まで名古屋で活動してもらえると考えています。これを解決できないと、名古屋で育ったベンチャーが都心に行ってしまうという、現状の課題を解決できません。

今後は、中部地区で経営基盤を作るためにユーザーを獲得し、売り上げを作るサポート活動に注力してやっていきたいです。我々だけでできることではないので、ベンチャーを支援している外部の皆様とも協力して中部地区を盛り上げていきたいですね。

INTERVIEWS



日本ベンチャーキャピタル株式会社(NVCC)とは？

NVCCは自らベンチャー企業を興し、現在、各分野で成功をおさめている事業家や、ベンチャー支援に熱意を持つ大手企業などが結集し、これまでとは異なる、支援型の本格的なベンチャーキャピタルをめざして、1996年に設立されました。

日本ベンチャーキャピタル株式会社
常務執行役員 北岡 侑子 氏

—NVCCから見て、東海地区はどのようなマーケットに見えますか？

北岡:今でこそベンチャー企業がたくさん出てきていますが、ちょっと前まではメディアでも「ベンチャー不毛の地」と取り上げられていたことを覚えています。私はバイオベンチャーが専門で、リサーチをする中で東海地区にもバイオベンチャーはいくつかあることも知っていました。規模が小さいフェーズでも、大手企業へEXITをしているバイオベンチャーもあって、興味のある地域ではありましたね。

—NVCCは初期のTongaliにも協賛していますよね。

北岡:名古屋大学はじめ、東海地区の国立5大学は、Tongaliプロジェクトだけでなく、ギャップファンド(大学が研究者に対して、基礎研究と事業化の間にある溝を埋めるための資金を提供する)の仕組みを取り入れています。それらに協賛させていただくことで、この地区の大学発ベンチャーが生まれやすい環境を構築できたらと考えています。また、Tongali主催のピッチコンテストの審査や、資本政策や資金調達のフォローなど、メンターとして起業家の方々と直接的に関わる機会が得られます。

—2016年にファンドを設立されてから設立当時と比べ、どのように変化していると感じますか？

北岡:がらりと変わりましたね。名古屋大学ファンドへの出資を募っていた当時、「名古屋にベンチャー企業はない」「名古屋は雇用も足りていて、税収もあるのでベンチャーを支援する理由がない」とあちらこちらで言われました。ただ、名古屋大学の方は当時から危機意識を持っていて、「日本の大企業も世界からシーズを集めているから、我々も世界と戦わなければいけない」と熱意を持って協力していただきました。

—東海地区での投資や支援を通して、市場に期待していることなどはありますか？

北岡:東海地区は、土地柄的にもづくりが強いです。ものづくりをしている横でベンチャーをつくるので、最近活躍している東海地区のベンチャー企業は、アイデア勝負の起業は少なく、むしろ堅実な事業プランを考えているなど感じています。なので、「地に足のついたベンチャーブーム」が起きて欲しいなと思っています。

Tongaliプロジェクトについて

2016年、東海地区の5大学(名古屋大学、豊橋技術科学大学、名古屋工業大学、岐阜大学、三重大学)が中心となってアントレプレナーシップ教育を行う、Tongali(Tokai Network for Global Leading Innovators)プロジェクトがスタートした。

アントレプレナーシップは幅広く解釈できる言葉であるが、ここでは“起業家精神”にとどまらず、“新しい価値を生み出すことへの挑戦”までを意味している。

Tongaliでは、問題解決へのアプローチだけでなく、アイデア創出、フレームワーク、仮説検証といった新しい価値を生み出すための手法をも学べるプログラムを提供している。これらのスキルの修得課程に合わせて、アイデアピッチコンテスト、ビジネスプランコンテストを実施し、事業化を志す学生たちのチャレンジを後押ししている。

現在、Tongaliプロジェクトには上記5大学に加えて、名城大学、中京大学も仲間に加わった。東海地区以外でも、大阪大学や熊本大学との連携が始まっている。今後も東海地区のアントレプレナーシップ教育の拡充に貢献し、イノベーションに繋げる活動を行っていく。



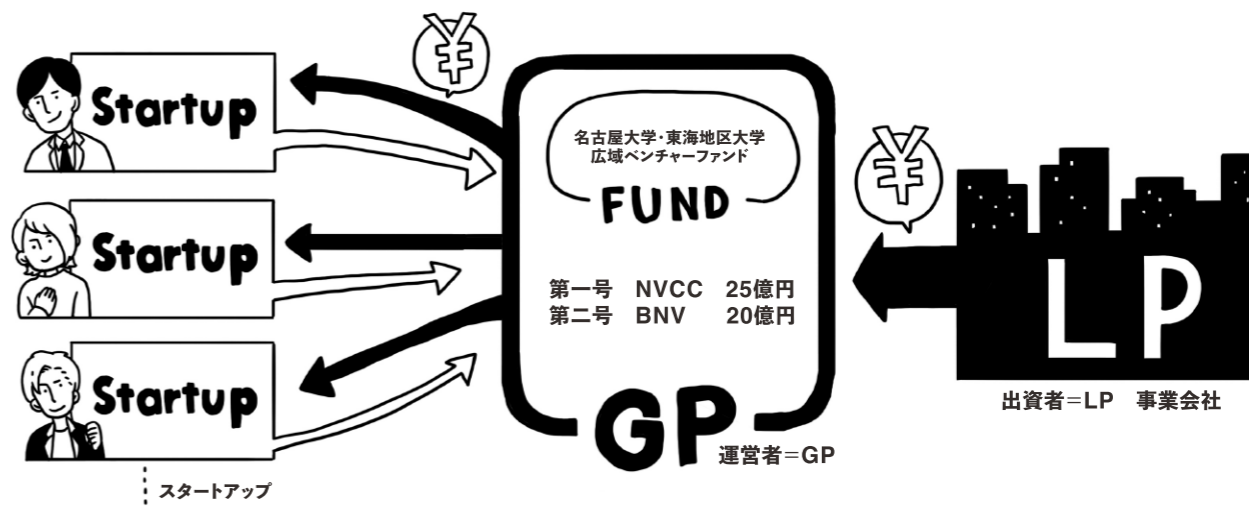
Venture's Talk



名古屋大学・東海地区大学広域ベンチャーファンドについて

研究成果やアイデアの事業化によるスタートアップは、いくつかのステージを経て、上場やM&AといったEXITを目指す。スタートアップの成長には、ステージに適した資金獲得のためのファンドの存在が不可欠と言える。

2016年、名古屋大学、豊橋技術科学大学、名古屋工業大学、岐阜大学、三重大学の5大学に由来するスタートアップの成長支援を目的とした“名古屋大学・東海地区大学広域ベンチャーファンド”が創設された。1号ファンドは日本ベンチャーキャピタル株式会社(NVCC)が総額25億円で運営し、18社に投資し終えた。2号ファンドは2019年よりBeyond Next Ventures株式会社(BNV)が総額20億円規模で運用を開始した。また、起業前のPoC(Proof of Concept)を固めるステージでも、GAPファンド“スタートアップ準備資金”が2016年度に創設され、4年間で39チームが採択され、11社が起業した。加えて、インキュベーション施設、大学発ベンチャー称号授与、セミナー、ピッチ、ベンチャーズトーク(スタートアップと金融関係者の交流会)など、ステージに合わせたインキュベーションプログラムを提供している。EXITに至ったスタートアップは、まだ無い。しかし、そう遠くない未来に、世界をアッと驚かせるための準備が着々と進んでいる。



Tongali Project

PROJECTS





貧困、地域格差、環境破壊などの様々な社会問題の解決のため、“持続可能なビジネス”という形で取り組むソーシャルビジネスが注目を浴びている。このソーシャルビジネスの意味合いは広く、地域の問題に特化したスモールビジネスもあれば、国際的な環境改善につながるビジネスもある。日本で課題となっている問題が、世界にも繋がっている場合もある。様々な社会問題を考え、課題解決の足掛かりにとまったのが、地域の問題に取り組む“グローバルアントレプレナーシップ研修”、インドネシアでの先進事例を学んでいく“ソーシャルアントレプレナーシップ研修”である。

名古屋大学



グローバルアントレプレナーシップ研修は、日本人学生・留学生が参加し、グローバルな視点で地域（ローカル）の課題解決を行うワークショップで、2018年度は足助町（愛知県豊田市）、2019年度は東栄町（愛知県北設楽郡）で実施した。内容は、農業や林業、地域産業などの体験といった地域での現場経験から始まり、地域の人との一週間の交流を通じて、ビジネスにおけるエスノグラフィー「観察→分析→仮説の構築」を実践する。最終日には、学生がチームを組み、地域で地域の人と協力して実践できるビジネスアイデアを発表する。

ソーシャルアントレプレナーシップ研修では、インドネシアのIBEKA*を訪れ、現地のソーシャルビジネスに関わっている若者と一緒にチームを組み、現地の課題を抽出し、解決策を考え、ビジネスプランを作り上げる。

両研修をきっかけに、現在までに学んできたことを社会にどのように活用するか、社会が欲している課題の解決となっているかを考え、未来のデザインに繋げている。参加した学生は、ひと回りもふた回りも成長して帰ってくる。



Nagoya University



豊橋技術科学大学は、主に高専卒業生を入学者として受け入れ、技術を支える科学の探求によって新たな技術を開発する学問、技術科学の教育・研究を使命としている。本学の教育の大きな特徴は「らせん型教育」である。高専や学部1・2年次において一定の技術教育を学んだ学生に対し、3年次以降でより高度な基礎・専門を「らせん型」のように積み上げ教育を行っている。また、本学は開学以来、企業との共同研究等を通じ、産学連携拠点の形成を使命の一つとしている。



本学では、文部科学省「次世代アントレプレナー育成事業（EDGE-NEXT）」の採択に伴い、起業や新事業創出に挑戦する人材の育成、地域のベンチャー・エコシステムの構築を推進している。2018年度よりビジネススクールを開講し、社会人と学生が互いに刺激を与えながら学びスキルを修得するという全国でも特色のある体制でアントレプレナーシップ教育を推進している。また、地域ベンチャー・エコシステムの醸成を目的とし、地域の異業種間での意見交換会、ワークショップなどを開催している。

2018年度より、包括連携協定機関である武蔵精密工業のインキュベーション施設「CLUE」とより実践的な教育・人材育成に協働で取り組んでいる。2019年度においては、10月下旬から3ヶ月に渡るプログラム「東三河 Innovator's Gate」を共催し、社会人6チームに加え本学学生チームも参加し、アイデアの構想からビジネスモデルやリーンキャンパスの作成、調査・検証を繰り返しながらビジネスプランを作り上げ、2月には各社のトップ、ベンチャーキャピタル、専門家等を招いてプレゼンテーションを行う。学生チームは社会課題解決やイノベーション創出の必要性に直面していないが、学生が抱える問題と地域とのつながりを中心にプランを構築中であり、今後に繋がる貴重な経験を積んでいる。



今後は講演中心のセミナーから、グループワークや対話形式のワークショップを中心に企画し、異業種と連携しながら自ら考え発信する場の提供も行っていきたいと考えている。

A. 豊橋技術科学大学キャンパス B. NHKロボコン参加のTUTチーム C. 回診サポートロボット「テラピオ」 D. ロボコンによるロボットの組み立て E. CLUEでのアイデア出し F. ペナ庁外観

*Institut Bisnis dan Ekonomi Kerakyatan (IBEKA) は 1992年に設立された、農林部の経済開発をミッションとするインドネシアの非政府組織である

意識醸成 / アントレプレナー育成塾

講義実施期間の隔月に、学内外の起業家をお招きしたトークイベントを開催している。ざくばらんな対談形式で「大企業発ベンチャー」「研究者」から「起業家」へのキャリアパス」「SDGsと起業」などをテーマに、のべ15名以上のイノベーターにご登壇いただいた。各回、学生のみならず、本企画をサポートいただいている企業様や行政担当の方々にもご参加いただき、学内外のネットワーク醸成に繋がっている。

その他、事業会社との連携によるハッカソンや最先端技術を用いたスタートアップの見学等を行い、学内外におけるアントレプレナー教育のエコシステム醸成を図っている。



起業実践 / 研究開発ベンチャープロジェクト

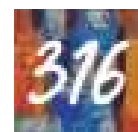


研究室のシーズの事業化を全面バックアップし、テクノロジーコマースライゼーションと起業志望学生のPBLを行うプロジェクトを展開している。デフォガ(フナムシ脚部を模倣した新素材開発)プロジェクトでは日本総合研究所主催「未来2019」で部門別最優秀賞を受賞し、大学発ベンチャーとして起業準備を行っている。

起業志望者・アイデア保持者に対する伴走支援

具体的なプランを持つ学生には、3Dプリンタ等を用いた試作品製作の補助や、活動資金の補助制度を設けている。また、定期メンタリング、起業時の行政手続きサポート等、フェーズに応じた伴走支援を行う。起業後の学内体制としては、起業後の連携を強化するため、学内インキュベーション施設や名工大発ベンチャー称号制度を設けている。

学生発ベンチャー



株式会社 Lab316 / 代表取締役 手嶋 祐一
テクノロジードリブンな事業をモットーにしながら、複数のメディアアプリを展開中。昨年進出した中国では、動画事業の登録が既に60万を超える等急成長を遂げる。(2020年2月現在)



合同会社エンターテイル /
代表取締役 大堀良介
ビーコンを用いた地域活性サービスを開発。
その他ソフトウェア等の受託開発。



長きにわたり地域産業と向き合ってきた名古屋工業大学には「ものづくり精神」を受け継ぐプレーヤーが多く存在している。そうした人材の中から未来を見据え、「工学の知」でイノベーションを起こすアントレプレナー人材を輩出することを目的に、学部学生や専門性を持った大学院生、若手研究者を中心とした受講者に対して、育成・支援プログラムを実施している。



スキル習得 / アイデア事業化合宿

学生たちが温めている閃きや研究室での発見によるアイデアを、一つのビジネスプランとして仕上げることを目的とした3日間の集中合宿を実施している。2018年度よりスタートしたこの企画には、過去学部1年生から大学院修士2年まで幅広い層の学生が参加し、10以上のビジネスの種を生んでいる。業界の前線を走るスタートアップのメンターの方々に講師を迎え、各自がプランの精度を上げ、受講学生の中からはTongaliアイデアピッチコンテスト等の受賞者が出てきている。



Nagoya
Institute of
Technology



Gifu University

長らくスタートアップ不毛の地と呼ばれてきた東海地域にあって、とりわけ起業風土の乏しい岐阜県(全企業数におけるスタートアップの割合は全国最下位:日経ビジネス2018年10月号)にある岐阜大学だが、近年、起業支援体制を強化したことに伴い、スタートアップ企業の設立数や起業相談件数が急増している。

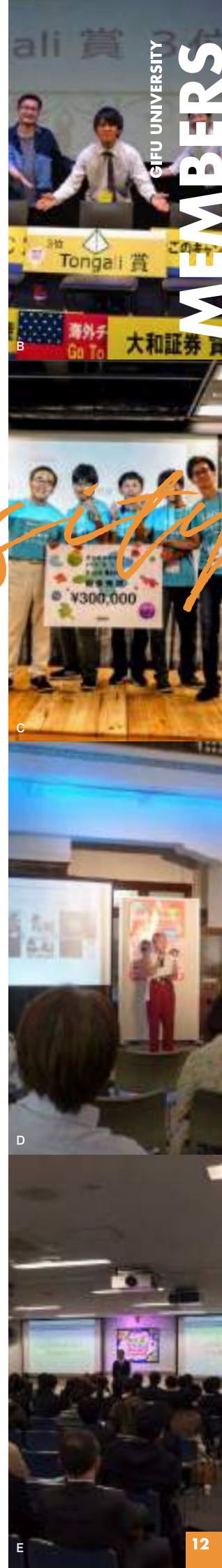
そこで、2019年度には、本学と大学発ベンチャーとの関係性を明確化するとともに、大学発ベンチャーの円滑かつ適正な支援を図る目的で、本学の研究成果等を活用し審査で認められた企業を「岐阜大学発ベンチャー」として認定することとした。認定企業には学内オープンスペース / 共用設備の利用やベンチャーロゴの使用、関連機関との連携仲介、本学を通じた広報等の支援を実施している。

また、文部科学省の次世代アントレプレナー育成事業(EDGE-NEXT)への参画に伴い、名古屋大学を中心とする東海4国立大学や地域の経営支援機関・金融機関と密に連携しながら、「起業家育成教育」に注力している。本学における主な活動として、大学院修士課程(400名)を対象とした起業関連講義や、起業家応援セミナー、起業家との座談会、さらには岐阜県では初開催となる全ての大学生・高校生を対象としたビジネスアイデアコンテスト等を企画・開催している。一連の活動により、多くの支援学生が起業関連コンテスト等で受賞、例えば、直近では「Tongaliビジネスプランコンテスト最優秀賞獲得(2019年6月)」や「愛知大学対抗ハッカソン最優秀賞 / 知事賞(2019年9月)」、「愛知学生海外発表事業審査会選抜(2019年10月)」等、学生の創業機運が向上している。一方、起業志向の強い学生・教職員には、専門家(メンター)との個別面談のセッティングや学外研修への参加支援、ファンドの申請支援等、効率よく起業できるよう重点的支援を実施している。

今後は、東海4国立大学とこれまで以上に協働しながら東海発の起業家(ロールモデル)による学生への指導・育成等、独自の起業家創出システムを構築し、東海地域における起業風土の向上、地域経済の活性化および新産業創出、そしてベンチャーエコシステムの構築に寄与していく。



A.愛知学生海外発表事業審査会選抜／B.Tongaliアイデアピッチコンテスト最優秀賞獲得／C.愛知大学対抗ハッカソン最優秀賞・知事賞／D.起業家応援セミナー／E.ぎふビジネスアイデア・プレゼンテーション





「東海地区産学連携大学コンソーシアム」の取組みのもと、三重大学では産学連携活動を担っている「地域イノベーション推進機構」と「地域創生戦略企画室」が中心となり、学生・教職員を対象にした起業家教育プログラムの実施に取り組んでいる。



国立大学法人
三重大学

文部科学省 EDGE-NEXT 事業の採択を受けた2017年度以降は、次に示すような教育プログラムを展開している。「①三重大学・東ワシントン大学アントレプレナーシップセミナー（東ワシントン大学(米国)のアントレプレナーシップセンターから講師を招聘し、1週間、同大学の教材を用いてビジネスアイデアを作成。セミナー最終日はピッチコンペを開催）」、「②学生アイデアブラッシュ支援」、「③海外でのピッチコンテスト参加の海外研修（上記①のピッチコンペ入賞者を対象として、東ワシントン大学でのピッチコンペに参加）」、「④ビジネスコンテストを目指す学生のための強化塾」等。その他にも、従来から取り組んでいる「Mip 特許塾（知財制度の解説から知財の活用方法等に関する講義）」や、教養教育授業「地域と仕事（三重県地域の企業の経営者等をゲストスピーカーとして招聘し、アントレプレナー精神やキャリア形成について教える授業）」、「アントレプレナー論（起業指導経験豊富なアドバイザーが講師となり、受講生がグループになってビジネスアイデアを考え授業の最終回では外部から審査員を招いてピッチコンペを行う授業）」等を通じて、起業家教育に取り組んでいる。

Mie University

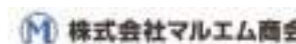
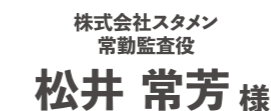
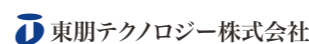
また、三重大学は、キャンパス・インキュベータ施設を設置しており、大学発ベンチャーの創出支援を行っている。同施設は主に事務スペースで、発明や特許などの研究成果を持ち、ベンチャー起業を宣言した教職員や学生、大学発ベンチャーおよび三重大学と共同研究を行う中小企業が入居することができる（入居審査あり）。また、インキュベーションマネージャーを配置しており、起業前のビジネスアイデアの相談や、起業後の会社運営に関すること等、相談対応できる体制を整えている。本起業家教育プログラムにおいても、同インキュベーションマネージャーがメンターとしても入り、相談対応や起業を支援する体制をとっている。



SUPPORTERS

Tongali プロジェクトサポーター

Supporters



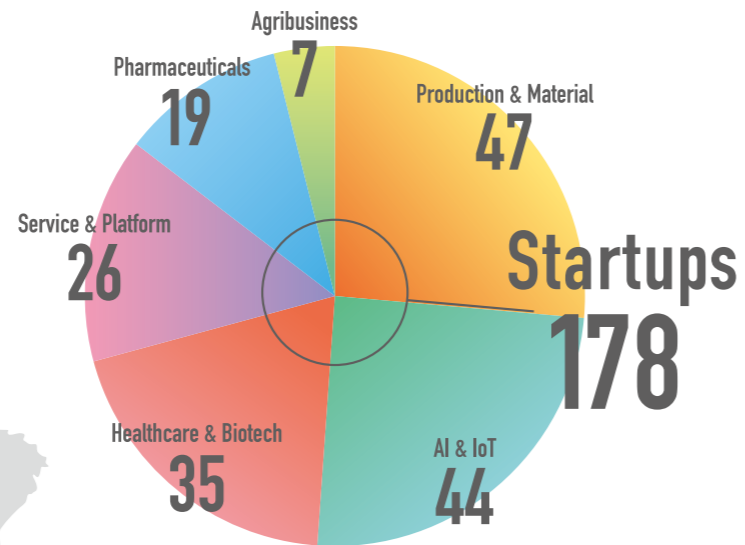
ご協賛のお願い

東海地区におけるスタートアップ・エコシステムの基盤形成を目標として、研究・教育成果の事業化・実用化を目指した大学発ベンチャー育成プログラムを企画・実施しております。是非とも皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



特典
Benefits

	プラチナサポーター 200万円以上	ゴールドサポーター 100万円	シルバーサポーター 50万円	ブロンズサポーター 10万円	エンジェルサポーター 1万円
コンテストご招待	●	●	●	●	●
Tongaliオリジナルグッズ贈呈					●
公式WEB、情報誌でのロゴの掲載				●	
アイデアピッチコンテストへの賞提供、予選会ご招待			●		
ビジネスプランコンテストへの賞提供、予選会ご招待					
企業カタログ設置等					
有料スクール・学生限定セミナーご招待		●			
情報誌への特集記事の掲載					
テーマ持ち込み型ワークショップ実施					
運営委員会参加	●				



KNOCK-KNOCK STARTUPS

大学発スタートアップは、革新的な技術やビジネスモデルを基に、世界に向けた新しい価値の提供にチャレンジしている。それぞれの技術やビジネスモデルの未来への貢献を想像すると、上に示した数字以上の価値が見えてくる。また、社会的な信用の一つの指標として、大学発ベンチャー称号授与と制度を設けている大学もある。

ぜひ、東海地区発の“とっきんとっきん”な大学発スタートアップの扉をノックし、未来に繋がるビジネスを体感してほしい！

AgreeBit株式会社
合意形成のためのD-Agreeサービス

OnClouds株式会社
自律移動ソフトウェア実証実験、カメラ姿勢推定地図生成

アイクリスタル株式会社
プロセス最適化支援、高品質SiCウェハ量産・販売

株式会社エンセファロン
機械学習を用いたシステム開発

株式会社コネクティボ
Webシステム開発

株式会社テクノスピーチ
最先端の音声関連技術

合同会社エンターテイル
Webサービス開発

有限会社来栖川電算
ソフトウェア開発

株式会社Acompany
ブロックチェーンを用いたプロジェクトの設計、開発

株式会社Lukos
AI・IoT技術を利用したシステムおよびサービスの提供

株式会社TARVO
音声加工・変換の開発受託、音声加工プラットフォーム公開

株式会社エミットジャパン
e-learningサービス・ソリューション提供

株式会社オプティマインド
最適化クラウドサービス開発・提供

株式会社キスモ
AIプロジェクトの事前検証やモデリング

株式会社サイエンスインパクト
放射線計測(宇宙ラジオグラフィ)、Webメディア運営

株式会社トライエッティング
基盤システム知能化事業

有限会社ユビグラフ
ユビキタス関連システムの開発及び販売

AI & IoT

APTJ株式会社
車載ソフトウェアプラットフォーム開発、販売、サポート

UTSテクノロジー株式会社
「高齢者見守りシステム」の実用化等

ZAZA株式会社
食卓マッチングプラットフォーム運営

株式会社GUTS
家庭教師派遣業、学習塾事業

株式会社Lab316
コンテンツ・メディア事業

株式会社コトワザ
建築アイテムのデザイン及びプロデュース

株式会社リハビリ・リサーチ・ラボトリー
下水道管の調査、診断及び解析業

合同会社Operation Technology Associate
サイバーセキュリティに関する演習実施、教育活動支援

合同会社ROKA
商業デザイン

長良サイエンス株式会社
研究用試薬

ビーアンドディー パートナーズ株式会社
日本製品の中国輸入許可サポート

一般社団法人GEOASIA®研究会
地盤工学に関する調査・設計及び技術開発、研究開発支援

株式会社Anotherworker
コンピュータ使用業務に対する効率化、自動化プログラムの作成、提供

株式会社Harmony For
外国人留学生に特化した就職サポート、企業の採用支援事業

株式会社SNAPSHOT
人事、経営領域のソフトウェア、余暇を楽しむためのサービス開発販売

株式会社Sonoligo
「音楽・スポーツ・アート」イベントに気軽に参加できるサービス提供

株式会社アーリー・バード・エージェント
人材紹介サービス

高齢社会街づくり研究所株式会社
超高齢社会に対応する街づくりの実現に向けた企画コンサルタント事業

サービス & プラットフォーム
Service & Platform

NU-Rei株式会社
プラズマ技術を用いたオンラインワン製品の開発、製造、販売

SyncMOF株式会社
ガスの吸着・分離材の製造、性能評価

株式会社LIFULL ArchiTech
設備材料の研究開発

株式会社アパード
パワーエレクトロニクス関連コンサルティング

株式会社スペースビジョン
3Dスキャニング技術

株式会社フォトニック・エッジ
光学・電子デバイス

株式会社産学官連携エンジニアリングセンター
切削工具の海外販売

株式会社先進技術研究所
CFRP等複合材料

株式会社名城ナノカーボン
カーボンナノチューブの製造、販売

合同会社3Dragons
3D表示装置・計測装置の開発、販売

シーエムシー技術開発株式会社
カーボンマイクロコル

シーズテクノ株式会社
グラフェンを活用した成膜技術

株式会社Photoelectron Soul
電子ビーム発生装置及び素子の研究、開発、製造及び販売

株式会社U-MAP
新素材“Thermalnite”の開発、事業化

株式会社アロマビット シリコンセンサテクノロジー
イオンイメージセンサ/ニオイセンサ

株式会社ファイナルマーケット
透水性舗装の設計、施工

株式会社日本中性子光学
大学・研究所で開発された装置を特許許諾により販売、普及

合同会社アンカーアセットマネジメント研究会
アンカーに関する研究開発、調査、コンサルティング

創光科学株式会社
紫外線LEDの開発

超臨界技術センター株式会社
超臨界二酸化炭素抽出技術を活用した日本初のデカフェ事業

Production & Material

Healthcare & Biotech

GRC株式会社

遠隔画像診断支援事業



Icaria株式会社

尿検査による「痛みのない高精度ながん早期診断」の実現



LaView株式会社

家庭で「血管を診る」ことを実現



株式会社MZT

ゼブラフィッシュによる医薬品開発支援事業

NU-Medライフケアシステムズ株式会社

医療・福祉・健康を支えるソフトとハードの提供と研究開発支援



NUProtein株式会社

コム胚芽由来無細胞タンパク質合成試薬製造・販売



ORTHOREBIRTH株式会社

医療品等(人口骨)の研究開発・販売



エーエムアール株式会社

感染症DNA診断キット

株式会社ヒューロビント

人支援ロボットの開発・製造・販売



ストレックス株式会社

医薬研究用機器および医療関連機器の企画・開発・製造・販売



メドリッジ株式会社

エンジニアリング技術をメディカル業界の企画・開発・製造・販売に橋渡し



有限会社ビコデバイス

汗・皮膚ガス分析

有限会社メディカル愛

メディカルイラストレーションの制作



株式会社 Meis Technology

間葉系幹細胞濾過液を用いた、人・動物向け応用製品



株式会社BioCMOS

半導体集積回路および回路基板の設計・製造、ファームウェアの開発



株式会社Craftide

タンパク質やペプチドを化学合成

株式会社iCorNet研究所

テララーメイド方式心臓サポートネット治療



株式会社J-ARM

獣医師が細胞を簡易かつ安全に細胞を培養できるキットを提供



株式会社PREVENT

生活習慣病既往者向け健康づくり支援スマホアプリを提供



株式会社シムス

再生医療、ロボット医療、AI医療の製品・サービス開発

株式会社セラノスティック研究所

生活習慣病リスクの指標「メタボレシオ」検査の受注、分析



株式会社 データスピリット

コンピュータを応用した設備診断等のシステムの開発、販売



株式会社プリンシプル

産業機器、医療機器の開発、設計、製造



株式会社フレンドマイクロブ

微生物によって環境への負荷を軽減するための研究、開発、製造、販売

株式会社ヘルスケアシステムズ

疾病予防郵送検査キット開発、大学・企業からの受託分析・臨床試験



株式会社 医用工学研究所

医療用データウェアハウスの立案・構築・導入



特定非営利活動法人 アイギメディカ

抗がん剤曝露対策



有限会社細胞外基質研究所

エラスチン等の研究用試薬の販売

Pharmaceuticals

創業

バイオコム株式会社

バイオ医薬品及びバイオ製品の開発



ユナイテッド・イムニティ株式会社

がん免疫療法を中心とする医薬品の研究・開発・製造・販売



株式会社デ・ウェスタン・セラピクス研究所

プロテインキナーゼ阻害剤を中心とした新薬開発



合同会社BeCellBar

注射に代わる革新的投薬技術の開発

Lawin株式会社

食の作り手に焦点をあて、モノの奥にあるコト(物語)を発信

Agribusiness

アグリビジネス

うれし野アグリ株式会社

房どりミニトマトの生産および販売



グランドグリーン株式会社

異科接木技術を基盤とした種苗の開発、自動接木システムの開発・販売



株式会社機能食品研究所

食品、化粧品等の臨床試験の受託



黒ウコンジャパン株式会社

苗の販売

Chukyo University



中京大学には、ベンチャービジネスの実態理解のための「ベンチャー企業論」をはじめとして、授業科目でスタートアップを学ぶ環境がある。また授業以外にもスタートアップに関する取り組みとして、学生が主体的に産官学連携活動や各種イベントに参加している。

最近では、工学研究科の大学院生がアメリカのオースティン市で2020年3月に開催される音楽・映画・最先端技術が集う世界最大級の複合イベント「サウス・バイ・サウスウエスト(SXSW)」に愛知県の代表として派遣が決まった。このイベントは将来有望な学生やスタートアップ企業から既に業界のリーディング企業まで、幅広い分野の展示者が参加する大規模イベントとなっている。

また、産官学連携活動では、企業と共同して地域活性化を図る取り組みや、新商品開発などを行っている。サービスエリアの新商品開発、地域の鉄道を使った親子向けイベントの開催など、様々な取り組みが実施されている。開発から販売、企画から運営までを一貫して行うことで実践的にビジネスの動きや地域について学んでいる。



A,B. JAF イベント / C. アイデア発表 / D. SXSW 選定審査会プレゼン / E,F. 学生による商品開発

NOTES

2019年、Tongali プロジェクトに中京大学と名城大学が新しく仲間に加わった。今後も、東海地区のアントレプレナーシップ教育のプラットフォームを拡大していきたい。



名城大学社会連携センターでは、産官学連携により0→1を生み出す能力開発に重点を置いている。具体的には、ヤフー、ジェイテクト、富士通といった企業と連携し、ハッカソンやデザイン思考によるワークショップを多数開催。自治体やNPO等と連携し、社会課題をテーマにした対話イベントなども開催している。

名城大学の特徴の1つは、経営、経済、心理、ロボット、プログラミング、建築、農学など幅広い分野の学生がいることである。企業や自治体からも、連携事業に多様な学生の参加を希望する声が多く、社会連携センターが窓口となり、学部学科、学年を超えた多様な背景を持つ学生が参加する機会を実現している。連携を加速させる共創空間「社会連携ゾーンshake」を設置し、地域の方や社会人も混ざるオープンな場をつくり、共創による価値創造の活動促進や人材育成に取り組んでいる。

2019年6月から起業に関心のある名城大生のためのコミュニティ「MEIJO STARTUP CLUB」を立ち上げ、起業に関する学びと切磋琢磨できる仲間や学外のメンターなどとお出会う機会を設けた。学生たちは、起業家マインド・スキルを習得し、起業のノウハウを学びながら、ビジネスプランコンテストへの出場や企業との事業開発などに取り組んでいる。



Meijo University

KNOCK-KNOCK STARTUPS

